

中城中学校1学年・2学年 2022総合的な学習の時間(ごさまる学習)指導方針

【2022年度の総合的な学習の時間】

学習指導要領の改訂や大学入試改革によって、中学校での学びもより「主体的・対話的で深い学び」が求められている。この中で、総合的な学習の時間(以下、総合)は、それぞれの教科・科目の学びを統合し、自分が現在、そして将来にわたり自律的に学び続けるための姿勢とそのために必要な資質能力を育てる時間となっていかなければならない。以上を踏まえ、本校1、2学年では「ごさまる学習」として小学校6年間の「中城ごさまる科」の学習を継承・発展させた形で総合の取り組みを行う。

【「ごさまる学習」とは】

中城や琉球の歴史・文化を、世界遺産を通して理解し、その歴史・文化に対する誇りを育て、時代を担うことのできるグローバルな視点を持つ生徒を育成する学習である。自分が探究したいことと地域・世界のつながりをより具体的に理解するとともに、多様な人との関係性の中で課題解決に向けた自分なりのアプローチの方法を深めていく。

【育てたい力とは】

- 心理を求め、自ら主体的に学ぶ姿勢をもつ人間の育成
→自分が探究したいことを発見・深化させ、自律的に学び続ける姿勢を育てる。
- 互いに個性を尊重し、敬愛する心をもつ人間の育成
→自分が探究・深化したいことと、地域・世界のつながりから、世界の中で自分が生きていく力を高めるとともに、多様性を尊重し、他と協働して自分たちが住む世界に貢献できる力を育てる。
- 心身の調和がとれ、豊かな心とたくましい精神力、表現力・発信力をもつ人間の育成
→自分の考えをより具体化・深化させ、それを「自分らしく」アウトプットできる力を育てる。

【総合を進めるうえで大切にす4つのC～Society5.0時代を生き抜く力～】

- Creativity (創造性とイノベーション)
- Critical thinking (課題解決と批判的検証)
- Communication (コミュニケーション)
- Collaboration (コラボレーション)

【プログラムを進めるときのポイント】

- 生徒自身・生徒同士の自発的な問いを大切にする
→教師・支援者が問いを与えるのではなく、自分が自分の成果物に対して、問いを立て、解決に導けるような場を構築する。
→「報告会(発表会)」を「問い出しの力を身に着ける場」「自らの問いを深める場」として機能させる。
→テーマ検討会や中間報告など、アウトプットの場を増やし、生徒間でのコミュニケーションの量を増やすとともに、クリティカル・シンキング(批判的思考)を働かせる機会を増加させる。
- テーマの変更を前向きに～自分が探究して苦にならないものを見つける～

→自分が探究したいことは、深めれば深めるほど変化(成長)していく。そのため、当初案に縛られず、自分が探究したい方向に常に変化し、考えていくようにする。うまくいっていないときに、それをわかって進むのではなく、よりよい方向に変えていく姿勢を育てていく。

【アプローチのポイント】※問いはアドバイスを求めてきた生徒に対してをイメージ

- ・正解は無数にある → 生徒の「正解」を大切にします
(問い) あなたは、どう考えるの?
 - ・「学びの量」が大切 → 何をしたかではなく「何を学んだか」学んだ量を大切にしましょう
(問い) あなたはなぜ、そう思ったの? 本当にそうなの? もっと調べてみたら?
 - ・主体的な学びを進める → レールを敷くと一見きれいに見えるが「主体性」は薄れます
(問い) あなたはどうしたいの? 他の選択肢も調べてみたら?
 - ・「活私開公」 → 減私奉公的な視点ではなく、自分たちが生き活きと活動できるかが大切です
(問い) あなたはそれを本当にやってみたいの? もっとワクワクするものは?
 - ・「探究に終わりなし」 → だからこそ、途中経過でもアウトプットすることが大切です
(問い) 今、何をしてみたいの? 将来ではなく、今からスタートしてみても?
- ☆「指導」から「サポート」へ → 大人は、彼らが主体的な学びへと一歩踏み出せるように、背中を押してあげるサポーター

【プログラム】

●到達点

- ・自分が現在、興味のあること、探究したいことの方向性が形作られている。
- ・自分が探究したいこと、地域・世界とのつながりの緩やかなイメージがつかめている。
- ・課題を明確化し、課題解決に向けて、自分なりの具体的なアプローチを行うことができる。
- ・多様な主体と関わることの意味を理解し、コミュニケーションをとることができる。

●具体的な内容

- ・今年度は、6月までの探究では自分が興味を持っている分野における地域の課題を見極め、テーマ設定に重点を置く。各個人が提案したテーマをもとに、個人及びグループで夏休み期間中に具現化し、課題解決に向けて主体的に関わることを行う。(主体的に関わるとは、与えられた場に参加するのみではなく、自分が場づくりに参加すること、場をつくりだすこと、仮説をもってその人・グループと対話すること等をいう)このことから、自分が探究したいことをより掘り下げている人(地域の人材等)とのつながりを構築し、自分の探究したいことを深めることはもちろん、自分の探究を応援してくれるネットワークの構築につなげる。そうした取り組みの中で、課題解決に向けたアプローチの方法、グループで動いた場合にはその意味と課題、自分の興味のある分野における地域の現状を深める。これらを9月の報告会までにまとめ、報告する。
- ・後期では、前期の経験と9月のマイプロ報告会での反省等をもとに、より自分がコミットできるテーマを設定し、課題解決に向けたアクション(自分が探究したいことをもとに誰かを幸せにすること)を実践していく(実施のパフォーマンスを高めるために自発的にグループ化することを制限するものではないが、最終成果物は個人で作成する)。その中で、自分が探究したいことと地域・世界のつながりをより具体的に理解するとともに、多様な人との関係性の中で課題解決に向けた自分なりのアプローチの方法を深めていく(2年での更なる探究学習に引き継ぐ)。
- ・自分の探究したいこととSDG'sとの関係性を具現化する。